

令和7年度第1回埼玉県介護現場革新会議 会議録

開催日時：令和7年8月1日（金）午後6時から7時20分まで

出席委員：草野議長、潮田委員、小川委員、松原委員、岩本委員、大久委員、松本委員、
小倉委員、川崎委員、鈴木委員 10名

欠席委員：足立委員 1名

オブザーバー：株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 石橋氏

審議の概要

【委員からの主な意見】

- 眠りスキャン、インカム、見守りカメラ、リフトなどの導入は、業務効率化、安心感、夜間人員削減、身体負担軽減に効果がある。
- 施設の老朽化と修繕費用が ICT 全面導入の障壁となっている。また、小規模な事業所ほど導入費用が大きな負担になっている。導入費用に対する助成が必要である。
- 書類作成や手続き等の事務作業の効率化・時間短縮のため、AI を活用していくべきである。その際、人間の能力低下や AI 任せによる事故のリスクに留意する必要がある。
- 高齢職員が多い現場では、ICT 機器への習熟に時間と労力がかかる。
- 介護テクノロジー機器の導入に当たって、現場における業務プロセスの見直し、現場との協議に基づく合意形成が重要である。併せて費用対効果も考慮しないと、使われなまま終わってしまうこともあり得る。
- 小規模事業所では、大きな機器導入が難しいため、まず業務見直しで生産性向上を図っている。業務改善で費用を掛けずに生産性を向上させる、できるところから始めることへの支援も必要である。
- 介護のみらいサポートセンターとして、介護テクノロジー導入にとどまらず、事業所の業務改善全般について相談対応していく。相談実績を積み重ね、サポート内容を広げていきたい。
- 同センターとその事業について、より一層の周知が必要である。革新会議の構成団体と連携すると、更なる周知につながる。